

# 第 54 回全日本大学駅伝対校選手権大会 新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアル

(初稿：2022/7/1)

(2 稿：2022/9/28)

(3 稿：2022/9/30)

## ◇第 54 回全日本大学駅伝対校選手権大会開催の前提条件

1. 愛知県、三重県、名古屋市で緊急事態宣言、または、まん延防止等重点措置が解除されている。(※ただし、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出中であっても、宣言の要請内容にイベント開催の中止もしくは自粛が含まれていない場合は開催を検討する。開催にあたっては、開催地の自治体等と感染防止に関する諸事項について十分に協議した上で、開催地の自治体等から示された条件等を踏まえ、感染リスクをできる限り軽減させる策を講じる)
2. 愛知県、三重県、名古屋市およびフィニッシュ地点の伊勢市から大会開催が認められ、コースを通過する自治体に対して開催が周知されている。
3. 愛知県、三重県、名古屋市で新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っている。

## ◇新型コロナウイルス感染症予防の基本方針

1. 体調管理チェックシートの事前、事後記録
2. マスク（不織布を推奨）の着用
3. 検温の実施
4. 手指の消毒
5. 3密（密閉、密集、密接）の回避
6. 換気の徹底（室内や移動中の車内において）

## ◇新型コロナウイルス感染症対策室の設置

1. 本大会における新型コロナウイルス感染症対策室を設置する。
2. 同じく新型コロナウイルス感染症対策責任者を置く。

|                 |      |  |
|-----------------|------|--|
| 新型コロナウイルス感染症対策室 |      | 朝日新聞名古屋本社内<br>全日本大学駅伝事務局<br>052-231-8131 |
| 感染症対策責任者        | 永井 純 | 公益社団法人「日本学生陸上競技連合」<br>03-5304-5542       |

## ◇感染者、濃厚接触者、感染疑い者の参加・従事の可否

1. 感染者への対応  
①大会開催日の 10 日前（10/27）の時点、もしくはそれ以降に部員（選手、主務等）や監督、コーチ等に PCR 検査・抗原検査で陽性反応があった場合、または「みなし陽性」と判定された場合、陽性者となった者の出場、帯同を認めない。  
※選手、チーム関係者に関わらず症状が出現した場合は、発症後に少なくとも 10 日経過した場合（発症日の翌日を 1 日目として 10 日目が過ぎた場合）、かつ薬剤を使用せずに

症状が治まってから 72 時間経過した場合は出場を認める。無症状感染者が無症状のまま経過した場合は、陽性となった検体を採取した日から 7 日経過した場合（陽性となった検体採取日の翌日を 1 日目として 7 日目が過ぎた場合）は出場を認める。

## 2. 濃厚接触者への対応

①大会開催日の 1 週間前（10/30）の時点、もしくはそれ以降に部員（選手、主務等）や監督、コーチ等が濃厚接触を疑われる場合は、当該者の出場、帯同を認めない。なお、上記の濃厚接触者は、自宅待機・健康観察の方法について保健所等の指示に従うことと、部員（選手、主務等）や監督、コーチ等の大会出場者との接触を禁止することが望ましい。ただし帯同に関しては、陽性者との最終接触日から 5 日間が経過していれば、常時マスクを着用し、他者との距離を保つなどの感染拡大防止対策を十分に取れるのであれば、帯同を認める。選手としての出場は、陽性者との最終接触日から 7 日間が経過するまでは認めない。

## 3. 感染疑い者への対応

①大会開催日の 10 日（10/27）の時点、もしくはそれ以降に部員（選手、主務等）や監督、コーチ等が、感染疑い症状（発熱、咳、咽頭痛、息切れ、全身倦怠感、下痢、味覚障害等）を発症した場合には、インフルエンザ等の新型コロナウイルス感染症以外の感染症リスクも考慮し、当該者の出場、帯同を認めない。ただし、次の 2 つの要件を両方満たしている場合には、出場を認める。

A) 感染疑い症状の発症後から少なくとも 8 日以上が経過している（発症日を 0 日として 8 日間とする）。

B) 薬剤を服用していない状態で解熱後および症状消失後、少なくとも 3 日以上経過している（解熱日・症状消失日を 0 日として 3 日間とする）。

## ◇感染症発生時の対応

1. 感染症対策室は、参加者から発症の報告を受けた場合の対応方針を開催自治体の保健衛生部局と事前に検討する。
2. 大会終了後、1 週間の健康観察期間に新型コロナウイルス感染症を発症した場合、あるいは陽性であることが判明した場合は、競技者本人かチームの代表者が、感染対策室に対して速やかに連絡する。
3. 感染者が出た場合、開催自治体の保健衛生部局に連絡し、指示に従って協力する。
4. 感染症対策室は、自治体や保健所等と連携しながら、感染者の公表、その内容を決定する。情報の公表にあたっては、感染者に対して不当な差別及び偏見が生じないように個人情報保護に留意する。

## ◇会場における感染予防策

1. マスクの着用の徹底（屋内では不織布マスク）
  - ①大会役員、補助員、警備員などすべてのスタッフに常時マスク着用を義務付ける。
  - ②選手には、競技中（ウォーミングアップ、クールダウンを含む）以外のマスク着用を義務付ける。

- ③チーム関係者、報道関係者も会場および周辺でのマスク着用を義務付ける。
- ④競技者と接触する可能性があるスタッフはフェイスシールド、手袋、ガウンなどを着用する。
- 2. ソーシャルディスタンスの確保
  - ①会場では可能な限り他人との距離を確保し、必要以上の会話を避ける。
  - ②たすき、健康に関する誓約書の受け渡しなど、対面での対応が必要な場所にはパーティションを設置する。
- 3. 手指の消毒場所の確保
  - ①選手の待機場所、大会役員や運営スタッフが滞留する場所には可能な限りアルコール等の手指消毒剤を用意する。
  - ②布タオルは使用せず、使い捨てペーパータオルを用意する。

(※アルコール消毒液、ペーパータオル等の消耗品はスタート、中継所、ゴールなどに主催者が準備。マスクは各自が用意する。ただし、主催者は緊急時に備えて予備のマスクを準備する)
- 4. スタート、中継所の仮設テント
  - ①競技者や付き添い部員の距離が近くなりすぎないように呼びかける。使用した競技者が長く滞留しないよう促す。
  - ②使用者が触れる場所については、こまめに消毒する。
- 5. 仮設トイレ
  - ①ドアノブ、レバーなどは、こまめに消毒する。
- 6. ごみの処理
  - ①会場にはごみ箱は置かず、飲み残し飲料や鼻水、唾液などが付着したごみは自己責任で処理（原則として持ち帰り）するよう事前に周知する。
- 7. その他
  - ①喫煙所は設置しない。
  - ②受付や監督・マネージャー会議等で使用する物品（テーブル、イスなど）、運行車両の室内はこまめに消毒する。

#### ◇競技者およびチーム関係者の対応事項

- 1. 競技者は大会の1週間前からの体調管理および検温を実施し、日本学生陸上競技連合の体調管理チェックシートに記入して各大学の代表者もしくは個人が管理する。
- 2. 競技者、チーム関係者は会場到着時に検温を実施する。検温時、37.5度以上と確認された場合、あるいは体調に異常があった場合には大会本部の医師の指示に従う。
- 3. 体調が不確かな競技者がいたときは、その場で検温を実施し、大会本部の医師の指示に従う。
- 4. 大会終了後1週間の体調管理・検温を実施する。
- 5. 競技中を除きマスクの着用を義務とし、マスクをしていない人に対し注意を促す。手指の消毒の徹底を呼び掛ける。
- 6. 会場では極力、唾（つば）や痰（たん）を吐かない。

#### ◇大会関係者の対応事項

1. 感染予防対策を目的に個人情報を取得する必要があるため、健康に関する情報は要配慮個人情報にあたるため、選手、チーム関係者、参加者から必ず同意を取る。
2. 大会前後の1週間の体調管理チェックシートを記入し、体調管理に努める。

#### ◇観戦者への対応

1. 沿道での観戦や応援はマスク着用のうえ、周囲との距離を保ち、声を出すことは控えるよう協力を呼びかける。
2. スタート、ゴールの付近では、コーンやバーで立ち入り禁止区域を設け、3密状態の発生を防ぐ。
3. 観戦や応援の人たちによる3密状態が発生したり、発生しそうになったりした場合は、プラカード等を持った警備員、スタッフが解消を促す。

#### ◇レースの管理

1. スタート前
  - ①待機テントでは、他の選手、スタッフと密になることを避けるよう呼びかける。
2. レース中
  - ①レース中の給水は原則として小サイズのペットボトルを使用する。飲料を取り扱う者は事前の手洗いや消毒など衛生管理を徹底し、手袋を着用する。
  - ②ペットボトルなどの回収を考慮して給水所にトングを用意する。
3. フィニッシュ後
  - ①フィニッシュ後は速やかに選手を指定区域へ移動するよう誘導する。
  - ②競技中、フィニッシュ後に倒れ込んだ競技者の対応は、防護体制を整えたスタッフで対応する。
  - ③レース終了後は、手指のアルコール消毒、手洗いを促す。
4. メンバー、記録の確認
  - ①メンバー、記録を掲示することによる密集を避けるため、ウェブでの確認を促す。

#### ◇移動

1. バス内ではマスクを着用し、大声での会話は控える。

#### ◇宿泊

1. 食事会場をチーム専用とすることができるか検討する。
2. チームが使用する部屋は事前に消毒、換気するよう宿泊施設へ依頼する。
3. 自室以外ではマスクを着用する。
4. エレベーターのスイッチや階段の手すりなど、不特定多数が触れる箇所については可能な限り素手で触れないようにする。素手で触れた場合は、できるだけ速やかに手洗いかアルコールで手指消毒を行う。

#### ◇食事

1. 選手の席は可能な限り 1～2m を確保し、向かい合わせの配席はしないようにする。
2. 十分に広い部屋がない場合、グループ分けして食事時間をずらすようにする。
3. 宿泊施設以外で飲食をする場合、多人数での飲食は避けること。また、利用した店と人数、一緒に飲食したメンバーを各個人でメモするなどして覚えておくこと。

#### ◇ミーティング

1. 対面にて実施する場合、マスクを着用し、部屋の換気に留意する。
2. 監督、コーチ、選手は、可能な限り 1～2m を確保して着席する。
3. 対面でのミーティングを制限し、限られた人数またはオンライン会議を利用する。

#### ◇当日の医療体制

1. 医師らが医療班用車両で随行する。異変があった場合には医師の指示に従う。
2. 当日の感染者発生に備え、医療用個人防護具（フェイスシールド、手袋、マスクなど）を準備する。

#### ◇メディア・取材への対応

1. 主催者の対応事項
  - ①主催者は報道各社向けの大会取材要項を作成し、メディアの履行義務事項（開催 1 週間前の体調管理・検温の義務と体調管理チェック表の提出、および終了後 1 週間の体調管理・検温を行う旨を必ず記載）などを記載し、取材の事前申請を受け付ける。
2. 取材人数について
  - ①人数を設定し、事前に報道関係各社に通知する。
3. 取材方法について
  - ①報道受付では、事前に記載してきた取材申請者から個人別の体調管理チェックシートを受け取り、本人確認後、IDカード、ビブスを交付する。
  - ②インタビューはオンラインを検討する。対面取材の場合はソーシャルディスタンスに十分留意するよう促す。
4. 取材・撮影エリア
  - ①設定した撮影エリア内でのソーシャルディスタンスは、カメラマン同士で調整するよう要請する。
5. 報道取材者への依頼
  - ①取材時はマスクを着用する。
  - ②大会開催 1 週間前の体調管理・検温と体調管理チェックシートの提出、大会終了後 1 週間の体調管理、検温を実施する。
  - ③会場内では手指の消毒やせきエチケットなどを心がける。